

令和6年度 学校経営計画に対する中間評価

集計結果の、< >はR5中間評価データ

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
1 ICTの効果的な活用や様々な学習形態を工夫することで、主体的・対話的で深い学びを実現し、論理的思考力、批判的思考力及び課題発見・解決能力を育成する。	① ICT機器によるGoogleclassroom、ロイノートといったアプリケーションを積極的に活用し、効果的な使い方を研究し、授業改善を実践する。	教務課 各教科	ICT機器によるGoogleclassroom、ロイノートといったアプリケーションの活用により、学習効果が高まった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	86.4% B (a33.8%+b52.6%) <84.4%> 1年 87.0% B (a39.5%+b47.5%)<80.8%> 2年 80.6% B (a28.9%+b51.7%)<90.6%> 3年 92.3% A (a33.3%+b59.0%)<82.1%>	a評価+b評価が86.4%となり、B評価であった。昨年度の中間評価は84.4%で昨年度より上昇している。達成度判断基準が今年度より10%ずつ低かったのでA評価であった。昨年度の最終評価では、84.6%であり、わずかに上昇している。よって、昨年度同様、授業やその他の様々な場面において、生徒側も教員側も、ICT機器によるGoogleClassroom、ロイノートといったアプリケーションの活用が増え、学習効果が高まったと感じている生徒が多く、よい状況が続いている。今後はA評価を達成できるように、さらに生徒と教員が共に有効なICT機器活用を模索し、生徒の学力向上につなげていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② グループワークやペアワークなどの授業形態を積極的に取り入れ、生徒の対話の場面を作り、教師による講義中心型の授業からの脱却を図る。	教務課 各教科	日々の授業において、グループワークやペアワークなどの授業形態を取り入れ、生徒の対話の場面場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	69.2% C <71.2%> (a 34.6% + b 34.6%)	a評価+b評価が69.2%で70%をわずかに切り、C評価となった。昨年度の中間評価の71.2%と比較してわずかに減少している。昨年度の最終評価は66.7%でわずかに上昇している。概ね70%前後を推移していて、A評価を達成できない状況が続いている。「あまり当てはまらない」が残り30.8%であり、これも似たような状況が続いている。一定の割合の教員が生徒の対話の場面場面を毎回の授業でなかなか設定できていない現状が続いていることが予想される。今年度の評価計画に示したように、今後は、互いに授業を見合せて、教師同士で学び合い、情報交換の場を増やし、様々な手法を検討して、生徒同士の対話の場面を増やす努力が求められる。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面に積極的に設けることで、論理的思考力や批判的思考力を育成する。	教務課 各教科	日々の授業において、生徒が自ら課題を見つける活動を取り入れ、教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面を(a多く+b時々)設定している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	78.8% B <73.1%> (a 25.0% + b 53.8%)	a評価+b評価が78.8%でA評価まであと1.2%となった。昨年度の中間評価は73.1%、最終評価は70.6%で少し上昇していて、重点目標1の③について授業改善がある程度進んでいると言える。重点目標1の③は生徒同士の対話する場面を重視する重点目標1の②に通ずるものがある。この重点目標1の③は日々の授業において教師と生徒が意見交換する場面の設定も大事になる。今後はA評価を達成できるように、教員各自が「生徒が自ら課題を発見するような活動」をいろいろ考えて、重点目標1の②の改善を図りつつ、「教師と生徒及び生徒同士が意見交換する場面」を多く設定できるようにさらに授業改善を図っていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
2 個別面談の充実、探究活動を主とする学習活動、さらにはデジタル・理数分野への理解を深める教育活動を積極的に行い、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期から進路調べやキャリア教育を積極的に行うことで、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① きめ細かい個人面談、進路調べ、キャリア教育などを通じ、生徒の進路意識を高め、自ら能動的に進路目標を設定し、進路実現を図ろうとする姿勢を育てる。	進路指導課 学年 教科	面談や進路学習、進路の行事を通して、自らの進路選択に関する知識を十分に得ることができた(aよく+bやや)とする生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上	85.4% B (a 28.6%+b 56.8%) < 80.4% > 1年 79.0% D (a26.1%+b52.9%) < 74.3% > 2年 84.7% C (a25.2%+b59.5%) < 84.0% > 3年 93.1% A (a35.2%+b57.9%) < 84.2% >	昨年同時期と比較すると、全体で5%上昇している。 今年度は新規企画として1年生全員を対象に、文理選択前の6月に大学見学ツアーを実施し、大学や大学で行われている講義や研究を、生徒自らが見て体験する機会を設けた。また、3年では探究・DXの企画にも大学の先生と関わる機会が増えたことも影響していると思われる。記述評価においても「他校と比べ大学と関わる機会が多い」「生徒の将来を考えている」とのコメントがあり、今後も進路について具体的なイメージを描き、考えることができる機会を増やしていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 探究的な活動を通して、生徒が課題を発見し、解決策を模索することで、自らの興味関心や適性を自覚し、将来社会に貢献できる人材となるよう、取組を工夫する。	探究推進室	(1・2年生)総合的な探究の時間を始めとする様々な探究的な活動を通して、社会問題により関心が高まり、卒業後の学びたい学問分野・領域等(将来やりたい仕事等)が年度当初に比べ、より明確になった(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	73.9% B (a22.4%+b51.5%) < 76.8% > 1年 63.4% C (a18.1%+b45.3%) < 75.6% > 2年 77.6% B (a25.9%+b51.7%) < 82.4% > 3年 80.9% A (a23.0%+b57.9%) < 72.1% >	学年が進むごとに探究的な活動を通して、学びたい学問分野が明確になっている様子が見てとれる。実際今年度の総合的な探究の時間で行っている内容は1年生は地域課題の解決、探究の流れをつかむことが目標であり、学びたい学問分野に繋がっていない生徒が多くいることは致し方ない部分もある。2年生は今年度からクラスを解体し、自分の興味があるテーマでチームを作り、探究活動を行っているため、この活動を通して学びたい分野が例年以上に明確になってくれることを期待している。3年生は明倫版『高校での学び』、エナジードの利用により昨年度よりも学びたい学問分野が明確になっている生徒が多い。	CまたはDの場合は、改善策を検討	12月に学校評価にて評価する。
	③ 探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIなどを適切に活用できる(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	探究推進室	探究的な活動の過程(課題の設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)において、数理・データサイエンス・AIなどを適切に活用できる(aよく+bやや)と感じている生徒の割合が、 A 75%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	年度末に集計 ※今年度新目標	1年生は野々市・石川ワンランクアップ計画、2年生はMGPを通して、データサイエンス・AIを活用する場面がある。3年生はDX出前授業を文理別日程で行い、データサイエンスの有用性を感じることができていた。生徒がデータサイエンス・AI等を適切に活用できるよう、生徒だけでなく、教員の研修も計画していきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
	④ 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	学問分野・領域等が一致している割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	年度末に集計 ※参考【成果指標】(生徒) 3年生:1学期末に生徒が志望した学問分野・領域等と、進学先の学問分野・領域等が一致している。	2-①での取り組みと連動し、各学年と協力しながら学問分野への興味や社会との関わりをもった進路研究を進めている。大学見学・大学出張講義・動画による大学講義視聴・模試と連動した進路探究・大学や企業等から提供されるプログラムなど、今後も生徒の進路研究が進むよう学年と協力しながら進めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
		進路を実現するため、学力を向上させることができた生徒の割合が A 65%以上 B 55%以上 C 45%以上 D 45%未満	年度末に集計 ※参考【成果指標】(生徒) 1・2年生:学力を向上させることができた。 ※総合学力テストの国教英3教科総合の全国偏差値で比較(1年は7月と1月、2年は1年7月と2年1月)	面談や様々な取り組みによる進路意識の高まりが、学習意欲に効果的につながって行くよう、模試の活用を進めていきたい。 特に、志望を実現するために、自己の現在地と目標までの距離、目標を達成するための手立ては何かといった具体的に落とし込み取り組んでいく、自律した学習、自己調整力を育てていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年1月総合学力テストの結果で判断する。	

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
3 教職員はICTを効果的に活用し、生徒の教育活動における個別最適化を図るとともに、多忙化の改善に取り組む。	① ICT教育支援サービスを活用したり、課題を精選するなど、個別最適な学びの実現を目指す。	各学年	ICT教育支援サービスを活用することや、朝学習や課題に取り組むことで、自らの学力を高めることができた(aよく+bやや)と考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	75.2% B (a21.7%+b53.5%)<76.5%> 1年 74.3% B (a23.2%+b51.1%)<72.9%> 2年 70.1% B (a21.1%+b49.0%)<80.6%> 3年 82.0% A (a20.7%+b61.3%)<76.8%>	【1年】各教科では、生徒の現状に合った教材を課題として提供し、学年では「到達度テスト」の結果をもとに各生徒の学力に応じて配信される課題に取り組みました。取り組むことの意義をしっかりと伝えていきたい。 【2年】スタディサプリEnglishを朝学習において活用している。前年度3月実施、7月実施の到達度テストで生徒の学力に応じた動画付き課題を配信し、それらを長期休み課題として取り組みました。今後もそれらの活用を進めていく。また、各教科にも動画、課題を活用するよう働きかけていきたい。 【3年】6月の県総体総文後に、朝学習の科目を生徒の学力や志望に応じたものに変更した。学習用アプリの活用については継続的に利用できている。今後は生徒の自学用により一層活用していけるよう働きかけていく。	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 採点省力化ソフトを積極的に導入し、採点・分析・評価・返却に要していた労力を削減する。	教務課	採点省力化ソフトを活用し業務の効率化を図ることができた(aよく+bやや)と考える教員の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	100% A <94.1%> (a 76.5% + b 23.5%)	a評価+b評価が100%となり、A評価を達成した。採点省力化ソフトを使用している採点は、全職員に浸透し、業務の効率化に大きく貢献している。今後はa評価の占める割合が100%に近づくように、採点省力化ソフトをさらに積極的に活用し、生徒の学習力向上につなげていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 業務負担の軽減や時間管理の改善などにより、職員の多忙化改善を進める。	副校長 教頭	時間外勤務が80時間を超える教員の月平均の人数が A 0人 B 2人未満 C 3人未満 D 3人以上	4～7月平均4.0人 D <昨年度4～7月平均4.5人 D> (単位:人) 4月5月6月7月8月9月10月11月12月 平均 80時間以上 5 7 3 1 4.0 うち100時間以上 1 3 1 0 1.3 <昨年80時間以上 8 5 1 4 2 6 6 0 1 4.5>	4～7月の長時間勤務者数の平均は4.0人で、昨年度の4.5人、一昨年度の6.8人と比べ減少傾向にあるもののD評価となった。 定時退校日の設定、業務負担軽減に向けたICT活用等これまで一定の効果があった取組を継続しつつ、生徒を信じて任せ方がよいことはないか、必ずしもやらなくてもよいことはないか、AIを活用し効率化できることはないかを考え、多忙化改善につなげていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討する。	勤務時間記録により年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
4 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらう。	総務課	学校行事やPTA活動で保護者が来校した、または職員とのやりとりを電話などとした回数の平均が2回以上の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	来校または職員とのやりとりした回数が 5回以上 4.8% <4.3%> 4回 2.7% <3.9%> 3回 14.6% <13.3%> 2回以下 77.8% <78.5%>	3回以上来校または職員とのやりとりをされている保護者が22.1%である。昨年の同時期と同じような数字である。7月までに保護者懇談、進路説明会、総会、学年説明会、入学式、挨拶運動があり、1～2回足を運んで頂いている。8月には明倫祭に多数来校された。11月には教育ウィークがあるので、来校または職員とのやりとりを通し学校での活動や生徒たちの様子を知ってもらいたい。	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	ホームページ上のアクセス数が月間平均で A 40,000以上 B 35,000以上 C 30,000以上 D 30,000未満	ホームページのアクセス数は(単位:件数) 4月 73,115 <36,343> 5月 79,052 <38,456> 6月 124,258 <46,122> 7月 161,570 <43,974> 月間平均 109,499 <41,224> A評価	各課・学年行事や部活動について毎日の更新ができるよう呼び掛けている。今年度は学年だよりを紙の配付ではなくホームページ掲載とした。前年度から継続して教職員ブログを掲載し、先生方は忙しい中、興味深い情報を投稿してくださっている。これらの取組のためか、アクセス数は前年度の同月と比べて数倍となっている。今後も掲載内容についてPTAの意見等を伺い工夫を続けていく。	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	生徒課	1,2年生の部活動の加入率が A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満	86.9% A <93.3%> 1年 80.5% <99.4%> 2年 94.5% <86.0%>	今年度より1年生の部活動入部を自由にしたが、昨年度までの流れ、または部活動加入の良さを強調した結果、加入率は比較的高い数字になったのではないだろうか。ただ、規則を変えた1年目でもあるので、今後どのような推移になるか見守る必要がある。	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。
	④ 生徒会行事、地域の行事への主体的な参加を促し、生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう推進する。	生徒課	委員会・生徒会活動、地域の行事に主体的に参加し、充実感・達成感を得ることができた生徒(aよく+bやや)の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	62.6% D (a21.7%+b40.9%)<65.8%> 1年 59.8% D (a18.1%+b41.7%)<64.2%> 2年 61.2% D (a21.4%+b39.8%)<72.3%> 3年 67.1% D (a25.7%+b41.4%)<60.7%>	部、委員会によっては積極的に地域の行事に参加しているのだが、校内の委員会活動は活発ではないのが、現状である。委員会の担当の教員や生徒に委員会活動の大切さを理解してもらうとともに、生徒が学校生活に充実感が得られるよう工夫していきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取組	担当	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)	判定基準	備考
5 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりとできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	朝の挨拶運動などで、生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかりと声を出し挨拶できた(aよく+bやや)生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	84.7% A (a32.1%+b52.6%) <85.6%> 1年 83.3% A (a29.7%+b53.6%) <82.4%> 2年 84.7% A (a34.0%+b50.7%) <91.5%> 3年 86.2% A (a32.6%+b53.6%) <83.5%>	生徒は自分から進んで挨拶をしていると答えているが、教員や保護者からは同じように感じていない意見もある。最近では声を出して挨拶する機会が減ってきているので、教員側からも積極的に生徒へ挨拶するよう努めていきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課 各学年	制服を意識的に正しく整えている(aよく+bやや)生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	98.0% A (a69.2%+b28.8%) <97.5%> 1年 98.6% A (a77.9%+b20.7%) <99.0%> 2年 97.9% A (a67.3%+b30.6%) <96.5%> 3年 97.3% A (a62.1%+b35.2%) <96.5%>	最近どの学校も制服の着こなしを多様化させている。ただ、制服の着こなしについては、様々な意見もあり、今後、教員間で共通理解をもって指導できるよう努めていきたい。	B以下の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している(aよく+bやや)生徒の割合が A 98%以上 B 95%以上 C 90%以上 D 90%未満	94.6% C (a61.5%+b33.1%) <94.3%> 1年 93.9% C (a62.7%+b31.2%) <96.1%> 2年 96.2% B (a62.9%+b33.3%) <95.7%> 3年 93.5% C (a58.6%+b34.9%) <90.4%>	自家用車との接触事故の発生や一般の歩行者からも注意の電話を受けており、自分だけでなく他者の命を守るためにも交通ルールの遵守について継続して指導していきたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことへの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒(aよく+bやや)の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	60.4% B (a24.4%+b36.0%) <68.9%> 1年 59.1% C (a23.2%+b35.9%) <68.7%> 2年 58.5% C (a24.8%+b33.7%) <72.0%> 3年 64.0% B (a25.3%+b38.7%) <65.5%>	これまでの反省から昨年度、学校全体から部活動単位で複数回ボランティア活動を計画する新しいかたちに変更したところ、多くの部が10月を中心に活動してくれたので、今後活動することによって地域活動への達成感が高まることに期待したい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	学校生活が楽しいと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	92.0% A (a44.8%+b47.2%) <91.0%>	例年中間評価ではAとなるが、文化祭以降人間関係の問題や学習への不安から下がる傾向がある。すでに1.6%の「全く当てはまらない」への対応が必要である。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	いじめや人間関係などの生徒の変化に対して、素早く察知し、対応することができたアンケートをとり、あてはまるの割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	96.3% A (a37.0%+b59.3%) <96.3%>	R5最終評価よりa「よく」が6ポイント上昇した。高い意識をもって早期発見早期対応が行われている。	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑦ 定例清掃の活動を通して、環境美化意識を高める。	保健環境課	環境美化を意識し真面目に清掃に取り組んでいる生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	93.3% A (a45.6%+b47.7%) <91.9%> 1年 91.0% (a45.7%+b45.3%) <91.2%> 2年 94.9% (a45.6%+b49.3%) <92.6%> 3年 93.9% (a45.6%+b48.3%) <92.1%>	今年度から清掃方法を全員一斉清掃から当番制に変更したが結果に大きな影響はなかった。しかし、全体でbがaよりも約2%高くなり、生徒の学校環境美化に対する意識が低下したと感じられる。また、学年比較では1学年の数値が一番低い結果となっている。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や一斉読書による読書指導によって読書に親しむ習慣をつけるとともに、探究活動等でも図書室を利用できるようにする。	図書室	生徒一人あたりの年平均貸出冊数が A 5冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	0.6冊 D (8月末時点) 年度末に集計	新入生図書室ガイドンス、総体・総文時の1年生の一斉読書で例年どおり、本校図書室利用方法や読書に親しむ機会を設けている。図書便りでの推薦図書紹介、ピブリオトークでの生徒推薦図書の紹介の効果を2学期以降に期待したい。また、1、2年生の「総合的な探究の時間」での調査活動等での図書室利用増にも期待し、生徒の読書習慣の向上に努めたい。	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。